

中国四国地域国内肥料資源利用拡大ネットワーク 第3回勉強会（概要）

- 国内肥料資源の利用拡大に向け、中国四国地域の関係者で構成する中国四国地域国内肥料資源利用拡大ネットワークの取組の一環として勉強会を開催しました。令和6年度1回目の開催となる本勉強会では、『地域資源由来堆肥の利用拡大に向けて』をテーマに取組事例等を紹介しました。

勉強会の概要

- 開催日：令和6年6月26日(水)
14:00～15:15
- 方法：オンライン
- 参加者：会員90名



【全農HP：全農の出版物】
<https://www.zennoh.or.jp/publish/publication/index.html>

○プログラム

管内の活用事例：はね営農組合（島根県大田市）

はね営農組合は、地域の7集落営農組織からなる「地域資源由来肥料（鶏ふん）利用ネットワーク」において、鶏ふん堆肥の散布を行う地域のコントラクターとしての役割を担う。化学肥料の使用低減、コントラクターによる鶏ふん散布システムを確立。

また、堆肥（フレコンバック）の配送などをJ Aしまねと連携して行うなど、安定して鶏ふん堆肥を散布できる仕組みを整え、地域での鶏ふん堆肥の利用拡大へ向けた取組を実践していることについて説明が行われた。



鶏ふん堆肥の散布（ペレット）

耕種（需要）と畜産（供給）とのマッチングについて

J A全農農畜産総合対策部統轄課

J A全農より、持続可能（サステナブル）な畜産酪農事業の取組の説明及び耕種農家と畜産農家とのマッチング機会を創出するウェブサイト「耕×畜なび」の説明が行われた。

また、畜産酪農事業のサステナビリティ課題に対する対応方針・目標・取り組み事例を情報開示する『畜産酪農サステナビリティアクション』（6月25日（火）全農HPにて公表）の紹介が行われた。